

週日の説教

金 大烈 神父 2010年5月14日(金)

《神様が導いて下さる》

おはようございます

ある姉妹がいました。その姉妹は若い時にご主人を失いました。事故によってご主人を失ったばかりなのに、また詐欺にあって家も失ってしまいました。そして、何日か経って今度は体の具合が悪くなり、病院に行って見てもらったら癌と診断されました。そういう不幸に襲われていましたが、彼女は祈りの姿を守っていました。その祈っている姿を見ている子供が、大きな声で泣きながら「神様がお母さんに何をやってくれたの、何故、今の状況でお母さんは祈ってられるの！」と攻めるような言い方をしました。その子供の言い方を聞いたお母さんは「あなたが話したように、私はお父さんを失い、家も失い、そして体まで悪くなって、人間的に考えれば、自分が不幸そのもののように思える。悔しい気持もある。悲しい気持もある。しかし私が今ここで神様を失い、信仰さえ失ってしまえば、私に残るものは何があると思うの。」という話です。

皆様、信者の中にも「何々によって、私は神様を信じたくないのです。」「このような神様だったら私はあまり信じたくありません。」という人が結構います。実際にそのように教会から離れる人々もいます。しかし、それは大間違いだと、私ははっきり申し上げたいのです。「何々のために私はこのようになってしまって、私は神様を信じたくない。」と言う気持があれば、これは逆に考えなければなりません。こういう事があったからこそ、「私が乗り越えられる唯一の力は神様である。」と言う心が生じなかったら、私達はいつも中途半端になってしまいます。皆様も色々な事があると思います。「何故、何故？」という言葉をよく使うと思いますよね。しかし、その何故の結論は、何故の質問の正しい答えは、「神様がもっとすばらしい自分の道を歩ませるために、無駄な事に命を懸けずに、本当に必要な事に命を懸けるように神様が導いて下さった。」という悟りが何よりも必要じゃないかと思います。

なぜなら、この世の中に私達が求める人間的な全てのものは、過ぎ去ってしまいます。絶対変わらないものを、私達は求めなければならないのです。去ってしまうものに縛られていると、絶対変わらないものに目が届かないのです。そういう意味で私達に与えられる幸せな事柄も、そして不幸な事柄も、全て神様を基準としてみななければならない事だと思います。いいことがあった時に感謝しましょう。幸せを感じましょう。しかし、その後が何であるか、それを先ず考えなければならない事です。

皆様、今日イエス様は福音(ヨハネ 15・9-7)を通して『あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。』とはっきりおっしゃっております。ということは、神様は責任を負って下さる話です。私達が間違えて選んでしまうと、その責任は私達に来ます。しかし、神様が選んで下さったということは、「私はそういう意味では責任を負わなくてもいい、神様が責任をとってくれる。」と深い信頼感が必要じゃないかと思います。

ちょっと別な話になるかと思いますが、イエス様が活動したその当時、イスラエルの一つの文化として、ある有名な先生と言われる人がいれば、人々が「私を弟子として受け入れて下さい。」と頼み込んで、そういう形によって先生と弟子達が定まって来たのです。しかし、イエス様は逆でしたね。自分の足を運んで弟子を選んだのです。自分の仕事を一生懸命やっている人に呼び掛けました。“ついて来なさい”と。それは特別な呼び掛けかも知れませんが、イエス様が2000年前に見せて下さったその呼び掛けの形が、今も私達に当てはまる話です。ですから皆様、皆様は一人一人が選ばれた方です。私達は、もっとプライドを持ちながら、選ばれたことに相応しい生き方を見せなければならないと思います。

ありがとうございました。